

(別紙様式)

(A3判横)

# 平成28年度 学校自己評価システムシート (県立坂戸高等学校)

目指す学校像	文武に秀で、地域に愛され、国際感覚豊かな人材を育てる学校
--------	------------------------------

重点目標	1 確かな学力の向上を図る教科指導の充実 2 高い志を育む進路指導の充実 3 リーダー育成を図る特別活動と部活動の充実 4 開かれた魅力ある学校づくりの推進
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学校自己評価						
年度目標			年度評価(1月26日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	①生徒の自学自習力育成のためには一定以上の学習時間とそれを支える学習習慣の確立が必須である。学校生活手帳による時間管理や週末課題等で学習時間の増加を目指してきたが十分とは言えず、継続的な課題である。 ②予習・復習を徹底させ、それを前提とした質の高い授業展開を行うことが自学自習力を進化させるための原動力になる。予習→質の高い授業→復習のサイクルを定着しなければならない。 ③質の高い授業を創造するためには、学校全体での組織的な取り組みと、教員の自主的な授業研究や研修が不可欠である。教員同士の自主的な学び合いや研修は活発化してきたが、今後さらに発展拡充していく必要がある。	①学習時間量の増加と学習習慣の確立  ②自学自習力の深化  ③自主的な研究授業・授業研究会の発展・拡充	①学校生活手帳を活用した時間管理 ①朝・放課後自習、隙間時間学習の奨励 ①19:30 完全下校を継続する。 ②1年生学習OTによる予習・復習法の徹底 ②AL や ICT 活用など新たな手法による授業改善 ②予習→質の高い授業→復習のサイクルの定着 ②授業評価アンケートや学習状況調査、実力テストの分析を組み合わせ生徒の学力を把握 ③若手教員を核に自主授業研修会を充実 ③教科枠を超えた自主研修化への拡大 ③指導法や教材の共有化 ③全教科の定期考査を統一化 ③県の事業に取り組む 「質の高い学校教育の推進に係る調査研究」「進学力パートナーシップ事業」等	①学習時間量調査を年2回実施し、各学年で学年数以上の学習時間量を目指す。 ①朝自習に取り組む生徒数を調査 ②1年生学習OTの実施 ②授業参観において生徒の予習・復習状況を確認、参観後授業改善協議を実施 ②授業・学校評価アンケート等で授業理解度と学校満足度8割5分を目指す。 ③授業公開を年3回以上実施。 ③自主的な授業研究会が発展 ③授業・学校評価アンケート等を経年比較し、前年度以上の評価を得る。 ③全教科定期考査の統一化	学習指導は概ね目標に達し成果が表れた。 ①家庭学習時間は改善の余地があるものの、朝自習の生徒は100名を超えるなど「自学の文化」は定着しつつある。 ②授業改善の成果が表れ、授業理解度は生徒、保護者とも昨年度より上昇し8割5分を超え、満足度も3年連続で向上した。 ③理科・英語を中心に自主公開を複数回実施するとともに、県の諸事業と関連づけた授業公開・授業研究会を11月に実施。	A  A  B
2	①目指す学校像「文武に秀で、地域に愛され、国際感覚豊かな人材を育てる学校」の実現を図るため、高い志を育み、生徒個々の確実な進路実現に向け、進路指導部と学年・教科とが連携した進路指導計画を策定したが、その着実な実施は継続的な課題である。 ②進路指導充実に向け、県教委指定の事業を活用した授業力向上と思考力育成のプログラムを開発し、学習指導や進学指導体制を構築していく必要がある。 ③生徒個々の高い志を育むためにも、家庭の支援は必須である。そのためにも保護者に対して計画的に進路情報を提供し、学校と家庭の連携を強める必要がある。	①進路指導部と学年・教科が連携した進路指導の確立  ②質の高い進路実現に向けての学習指導、進学指導体制の構築  ③保護者のための進路勉強会の開催	①ｽﾀｯﾌﾟ や実力テスト結果を分析し指導方法を改善すると共に、進路指導部と学年が連携し組織的な進路指導体制を強化 ①大学模擬授業・大学見学会を継続実施 ①ｽﾀｯﾌﾟ の結果分析会を複数開催し、2・3年生の個別進路指導に活用 ①社会人講演会の実施 ②進路目標校を絞り込み、学習指導・進路指導を焦点化 ②授業アンケートを2回実施し、学習時間・理解度等を分析 ②ピアリポートを実施し、思考力、判断力・表現力を育成 ③各学年、保護者のための進路勉強会を実施	①センター試験の受験者割合9割、国公立大20人以上。中堅以上の私立大学60人以上の合格を目指す。 ①②進路目標校を中堅国公立大学、中堅私立大学に設定し、学習指導・進路指導を目標校に焦点化する。 ①ｽﾀｯﾌﾟ 結果分析会を複数回実施す ②大学別進路説明会の実施、並びに大学別進路補習の導入 ②実力テストの経年変化を検証する。 ②授業アンケートの経年変化を検証し、授業理解度・学校満足度8割5分を目指す。 ③保護者のための進路勉強会を各学年1回以上開催	進路指導は概ね順調に推移したが、さらに進路指導部と学年・教科の連携を確立させる。 ①センター出願者92.7%、7科目受験者62名に増加するなど、高い志の実現に向けて成果が表れている。 ②計画どおり進路行事を実施するとともに、新規で難関私大ガイダンスを導入 ③学年別に保護者のための進路勉強会(「子どもの進学を考える会」)を実施。 ③授業アンケートの分析により全教職員で共通理解を進めた。	B  A  A
3	①生徒会行事の総括・運営マニュアルの作成を行いリーダーシップ育成をしてきたが、完全に生徒主体の生徒会行事運営までには至っていない。また、生徒会役員・実行委員の後継者育成が新たな課題である。 ②文武両立に課題のある生徒が多い。学校生活手帳を活用した時間管理、生徒の意識改革、濃密で効果的な部活動・委員会活動の実施は継続課題。	①生徒主体の生徒会行事運営 ②生徒会役員の後継者育成 ②学校生活手帳を活用した時間管理、効率的な部活動・委員会活動の実施と生徒の意識改革	①マニュアルを活用し、生徒会活動の自主的な運営を継承・改善。生徒主体の生徒会行事を目指す。 ①後継者候補の発掘と育成 ②学校生活手帳の定期的な確認 ②部活動の隙間時間を活用した隙間学習の奨励 ②各部・各委員会の顧問教員による、生徒の意識刺激	①行事ごとに総括して、行事の実態を把握したマニュアル・関係資料を作成・活用し、自主的に生徒会行事を運営 ①後継者の発掘と育成を確実に進行。 ②学校生活手帳の定期的な確認(1年生は2学期中間までは概ね1週間に1回、2・3年生は各定期考査間で概ね2回) ②隙間時間学習を奨励 ②各顧問・各担任が生徒の意識を刺激	生徒会活動の自主的な運営に成果があったが、引き続き「学校行事の文化」、「部活動の文化」の発展を図る。 ①各行事で実行委員会を組織するなど自主運営の体制を構築した。 ①本部役員選出では競争選挙となるなど後継者発掘が活発であった。 ②19:30 完全下校が定着し、時間管理の基礎が確立した。	A  B
4	①地域や中学生、保護者への本校理解を深めるため、積極的なPRと情報発信は継続課題である。 ②中学2年生の上級学校訪問を含め生徒募集の対応が広範になってきた。全教職員分担での生徒募集の取組及び新分掌による積極的な取組が必要。 ③学校だけの教育には限界がある。学校理解の促進と生活指導等での保護者との連携指導が課題である。	①HP等、多様な広報による情報提供 ②中学校・学習塾等との情報交換の取組 ③PTA組織の改編 ③学校行事やPTA諸行事への保護者の参加	①HP更新、学校案内、メディアの活用など、多様な手段で多面的な広報活動を引き続き継続する。 ②中学校・学習塾等の高校説明会参加や訪問、中学校PTA・生徒の学校見学の随時受入、学校主催の説明会の年4回実施など、より戦略的・積極的な生徒募集に全職員分担で取り組む。 ③PTA本部役員の出選法を改定し、PTA組織を改編する。 ③PTAと連携して保護者に学校行事を周知し、学校行事や公開授業・HR懇談会・保護者面談への参加者を増やす。 ③学校カレンダーを全戸配布し学校行事を周知	①HPの更新回数、多様な広報回数を検証  ②学校説明会への出席者数、中学校・塾説明回数、進学フェアなどでの個別相談者数を確認  ③PTA本部役員選出法を改編 ③PTA本部組織を改編 ③保護者の学校行事への参加者数、授業公開やHR懇談会、保護者面談の参加状況を検証	開かれた学校づくりについては概ね目標を達成した。 ①HP更新は約120回、連絡メール加入率は9割を超えた。 ②4回の学校説明会では昨年度より300名超増加するとともに、新規に個別相談会を実施した。 ②学校案内のデザインと内容を見直しさらに充実させた。 ③PTA本部組織を改編し、継続性を持った体制とした。 ③「子どもの進学を考える会」によりこれまで以上に保護者との連携を進めた。	A  B  A

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	6名

学校関係者評価	
実施日	平成29年 2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・本校が目指す「自学自習の文化」の定着について着実な進展がみられることに嬉しさを感じる。</p> <p>・家庭学習時間については、スマホの利用時間も含めて、今後さらに考えていかなければならないと思う。</p> <p>・授業理解度が3年間で10ポイントアップし、85.2%となったのはとても良いことであり、生徒による授業アンケートに基づいた授業改善や先生方の自主的な授業研究を積み重ねた成果の表れだと思う。今後は、生徒に改善した点をフィードバックするとよいのではないかと。</p>	
<p>・センター出願者及び7科目受験者の増加などの成果が表れてきたことに喜びを感じる。</p> <p>・保護者進路勉強会など家庭との連携の一層の推進による成果についても今後期待される。</p> <p>・進路希望実現のため、朝自習を行う生徒が増えており、良い雰囲気になってきたように感じる。先生からの刺激により、自分で時間を管理することの習慣もついてきた。今後は、学年やクラスによる温度差をなくし、全体的に足並みをそろえていく必要がある。</p>	
<p>・勉強と部活動の両立は永遠の課題だと思うが、一生懸命に部活動に取り組むことは、勉強をはじめ様々なことの基礎になる。部活動と同様に明確な目標を持って取り組んでほしい。</p> <p>・生徒自身に意欲や主体性を引き出し、さらに育成しようとする積極的な取組の姿勢に賛同する。</p> <p>・下校時刻の徹底など検討すべきではないか。</p> <p>・生徒会役員選挙で競争選挙になるなど、リーダー育成の良い方向に進んでいる。</p>	
<p>・学校行事や授業風景、生徒作品等の写真を豊富に入れた坂高カレンダーは、中学校でも取り入れてみようと思う。</p> <p>・ホームページの頻繁な更新や連絡メールの活用などの努力が学校説明会出席者の300名超増加(昨年度比)につながっていると思う。さらに個別相談会を新規に実施するなど、切れ目のない方策、取組の展開に感銘を受けた。</p>	